

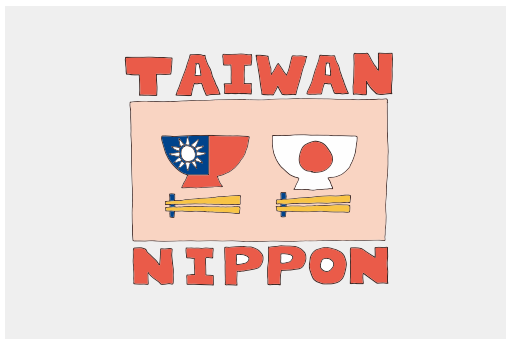
「いいたて村の村民食堂」プロジェクト



「までいな」ワークショッププロジェクト



国境を超える研修旅行プロジェクト



「までいな家」をみんなの家に 飯舘村民と大学生が協働する 飯舘村復興を目指す3つのプロジェクト

Contents

目次

飯舘までい文化事業団について

このプロジェクトが目指すもの

これまでの活動

本年度の事業

事業報告1「食」を通じた交流

「いいたて村の村民食堂」

事業報告2「手業」を通じた交流

飯舘村体験博覧会vol1.

「こちら五合目、応答せよ!～までいな山の登りかた～」

事業報告3「国際交流」による復興

「日台交流事業」

福島県研修旅行—台湾留学生に福島を体感してもらう旅

TAROTARO便—台湾研修事前準備

台湾研修旅行

本年度事業総括「山頂に向かってさらに一步、進む」



飯舘までい文化事業団について

山間の高原に広がる美しい村、飯舘。厳しい高地の自然と向き合い、村民同士が支え合うことを当たり前、人々は「までい」な暮らしを営み、自らの目指す村づくりに励んできました。そんな飯舘村を東日本大震災が襲ったのは12年前のこと。原発事故の影響で、これまで紡いできた暮らしを置き去りに、全村避難を余儀なくされました。

本財団が設立されたのは1年後の2012年。村の将来を担う飯舘村の中学生が、再生可能エネルギーによる村づくりの先進地であるドイツを訪ね、学びの成果を復興に生かす「未来への翼」事業が始まりました。

それから現在までの10年間、飯舘村が経験した、全村避難→避難先での生活→帰村へという流れのなかで、それぞれの時期に、村民にとって必要とされる対策を見出し、さまざまな事業を企画し、活動の幅を広げてきました。

総合振興計画を策定するなど、新たな村づくりの段階に入った飯舘村。行政と連携しつつも、在野の立場から独自の役割を果たせる民間団体として、「までい」な村づくりを推進していきます。

ホームページ



このプロジェクトが目指すもの

村に帰ってきた人、通っている人、村を離れても心を寄せてくれる人、新しく住み始めた人…さまざまな背景を持っている飯館の村民たち。そして、国内外には村の復興を支えたい!という多くの支援者がいます。課題となっているのは、どのような人でも「村と関わることのできる」仕掛けづくり。

このプロジェクトでは、特に財団設立当初から深く関わってきた若い学生世代の支援者と村民が中心となり、「村との関わりをさらに深め、一人ひとりが自分のやり方で村の復興に関わる」ことを目指します。

これまでの活動

- ・2011年～ 「未来への翼」事業
- ・2013年～ 「までいカレンダー制作事業」
- ・2014年～ 「ふるさと学級いいたて」実施事業
- ・2016年～ までいな手仕事 生きがいつくり事業
- ・2017年～ 飯館お土産開発事業
- ・2019年～ 台湾カフェTAROTAROプロジェクトー福島と台湾の大学生による地域特産品づくり
- ・2021年～ 日台交流WEBマガジンTAROTARO



—本年度の事業—

①

「食」を通じた交流

「いいたて村の村民食堂」プロジェクト

②

「手業」を通じた交流

「までいな」ワークショッププロジェクト

飯舘村体験博覧会 vol.1 「こちら五合目、応答せよ!～までいな山の登りかた～」開催

③

「国際交流」による復興

国境を超える研修旅行プロジェクト

村民と 福島大学
行政経済学類 大黒ゼミ生が共働開催

開店

いって村の

村民食堂

■ 開店日(定期)

10月28日(金)・11月25日(金)

12月23日(金)・1月27日(金)

2月24日(金)・3月24日(金)

■ 時間 11時～15時(ラストオーダー14時)

■ スピンオフ企画(不定期)も開催予定!

日程はホームページやInstagramをご確認ください。

メニューは「汁」

飯館村の日常食

一汁一菜膳 500円

漬物みそ汁おかわり無制限 30食



場所 まいでいな家

〒960-1892 役場隣り/
飯館村伊丹沢宇伊丹沢578番地1

※会場は変更となる場合がございます。ホームページで随時お知らせいたします。

いいたて村の村民食堂プロジェクト

「いいたて村の村民食堂」は飯舘村の村民と福島大学行政政策学類大黒ゼミの学生たちが、『ごはんを一緒につくって一緒に食べる』というプロジェクトによる交流の場です。

昔からおじいちゃん、おばあちゃんは作った野菜を使って料理を作り、若い人に食べてもらうことを生きがいにし、若い世代は「じじばば」の味をいつまでも懐かしく思ってきました。しかし、長い避難生活や、高齢者のみの帰還によって世代間の交流と食文化の継承が難しくなっています。このプロジェクトでは、①飯舘村の高齢者が若い人たちを食事に招待し、②自分たちがつくった野菜で日常食をつくり、③彼らに振る舞いながら一緒にだべる機会をつくることで、高齢者の生きがいを通じた食文化の継承を目指しています。

ただ教えてもらうのではなく「いっしょに作って、いっしょに食べよう！」そんな取り組みにしたら、レシピだけでなく、飯舘のこと、飯舘の味、飯舘の人たちの思い出話も聞けました。

今年度は10月から月に一度の定期開催。加えて、「村民食堂スピンオフ」として「お店をやってみたい！」という方がチャレンジショップとして出店できる試みも行いました。おそば屋さんをやってみたい、自分で作ったジュースで村のために何かしたい、うどんの作り方を教えたい…村民の方からたくさんの「挑戦したい！」という気持ちが集まりました。今年度開催できたチャレンジショップは2つ。今後も予定しているお店企画がたくさんあります。





* 10月28日

今年度初めての村民食堂。学生スタッフも緊張気味でしたが、お手伝いのお母さんたちに見ていただきながらテキパキと準備。村内からも、村外からもたくさんの方に来ていただき、13時ごろには30食すべてが完売しました。



メニュー

五目と山菜のおこわ

じゃがいもとわかめのお味噌汁

漬物3種

揚げかぼちゃのそぼろあんかけ

甘酒寒天



＊ 11月25日

噂を聞きつけた村民の方がお友達を連れて食べに来てくださいました。久しぶりに会った村民同士で会話も弾み、楽しそうな笑顔が。普段、村外に住む村の方が集える場となれたことが嬉しい限りです。



メニュー

五目・甘梅と大豆のおこわ
野菜たっぷりお味噌汁
漬物3種
きんぴらごぼう
かぼちゃ饅頭
甘酒



* 12月9日

初めてのスピノフ企画の開催です。今回は元飯館村担当生活改良普及員であり、「農家レストラン菜の花」というお店を南相馬で開いていた阿部真貴子先生と一緒に開店。

各地で加工クラブの立ち上げを支え、飯館のお母さんたちを勇気づけた阿部先生。

当日も阿部先生にお世話になったという村の方がたくさん来店してくださいました。

みんなに会えて嬉しそうな村のおばあちゃんに、勇気をもらえた気がします。



メニュー 「菜の花膳」

人参サラダ

タラの照り焼き

白菜と肉団子のスープ

漬物3種

ふるふき大根

さつまいもご飯と大根菜の塩揉み



* 12月23日



村民食堂では、若い移住者と村のおじいちゃん、おばあちゃん、役場や近所で働く方、そして大学生など、世代のバラバラな人たちが一緒に席で食事をしながら会話をしている光景がよく見られます。この日も真面目な話から、大きな口をあけて笑う話まで、たくさんの表情がありました。



メニュー

五目・山菜のおこわ
具たくさん豚汁
大根のひきな炒り
冬至かぼちゃ
漬物3種



* 1月27日



どさっと雪が降った飯舘村。真っ白なこの時期だけの景色を見ながらの村民食堂となりました。今回は、飯舘村の伝統の保存食「凍み餅」も食べていただきました。同時開催していた「こちら五合目、応用せよ！」の凍み餅づくりワークショップからのおすそ分けです。この日は、海外からの支援者である台湾留学生も参加してくれ、飯舘村での食の異文化交流となりました。



メニュー

2種類のおこわ
きんぴら
漬物3種
なめこのお味噌汁
凍み餅



* 2月24日



飯舘村の冬のご馳走である「鮭と発酵白菜の粕煮」。たくさんの村の方に「懐かしい!」というお言葉をいただきました。鮭は塩すり込んだあと重しをして水分を抜き、寒風にさらして乾かした手作りのものです。来店した村の方から「昔は鮭の身は焼いて、残った頭を煮込んで作ったんだ。冬の時期によく食べた。」と教えてくれました。村民食堂でも鮭の頭が使われています。今回は、村の歴史の詰まった発酵膳です。



メニュー 「発酵膳」

五目と山菜のおこわ
 キムチのお味噌汁
 鮭と発酵白菜の粕煮
 漬物3種
 りんごジュース



＊ 3月4日

スピノフ「台湾キッチンTAROTARO」

2回目の村民食堂スピノフ。今回は異国編です。海外からの支援者である台湾の学生さんと福島大学生が共同開発したレシピが並びます。ルーロー飯丼、麻婆豆腐丼、パイナップルケーキ、台湾茶、そして村のおばあちゃんのお漬物。すっぱい発酵白菜と台湾料理のこってり感がとても合う！



メニュー TAROTARO ランチセット

- ルーローハンもしくは麻婆豆腐丼
- 漬物3種
- パイナップルケーキ
- 台湾茶
- 無農薬栽培玄米の柿の種



* 3月24日

今年度最後の村民食堂。今回もたくさんの方が来店くださいました。「こちら五目目、応答せよ」の参加者の方から差し入れをいただいたり、「今年度最後だから食べに来たよ!」とお友達連れで来てくださったり、「来年も続けて欲しい!」と言いに来てくれたり、会食のお食事を選んでいただいたり…村民食堂が定着してきたこと、そして今後も活動を継続していく重要性を再認識しました。



メニュー

五目と山菜のおこわ

凍み大根と凍み豆腐とニシンのお煮しめ

漬物3種

わかめのお味噌汁

麴から手作りの甘酒

飯館村体験博覧会

vol.1

こちらら
ら合目、
応合せよー！
まではないな山の登りかた

KOGHIRA
GO-GOME-
OUTOUSEYO!



特設 Web サイト公開! ~村を楽しむ12のプログラム~

2022 **11.23** wed → 2023 **3.4** sat

2022年11月1日(火) 13:00 より受付開始 (事前申し込み制)

主催 一般財団法人飯館までい文化事業団
共同企画 福島大学行政政策学類 大黒ゼミ

飯舘村体験博覧会 vol.1

こちら5合目、応答せよ！ ～までいな山の登りかた～

「までいな村」を目指して村づくりを行なってきた飯舘村。時に厳しい高地の自然と向き合い、村民同士が支え合うことを当たり前、人々は「までい」な暮らしを育んできました。そんなまでいな村が持つ手業をいかした企画「飯舘村体験博覧会 こちら五合目、応答せよ！～までいな山の登りかた～」。村民、移住者、そして支援で村に入る大学生という3者が協働で、それぞれの手業をいかしたワークショップを企画し、6か月間で12のプログラムを提供しました。

企画の名前の由来は震災直後の村民の方の言葉からいただきました。全村避難が始まろうとしていた時のことです。「村づくりは8合目、9合目まで来ていたんだ。放射能汚染や避難があつたって、これまで積み重ねてきたものはゼロになりはしない。5合目からの再出発だ。」

これまでの村づくりの理念、それを支えた人々、村の伝統や手業。村が決して失わなかったものから始め、復興の高みに向けて歩み続ける人たちが今もいます。その人たちのことを知ってほしい。そして一緒に「までいな山」に登ってほしい。そんな願いを込めました。

12のプログラムは、①村民②移住者③村の支援に入る大学生、そして飯舘村に移住したいと考えている移住希望者が案内人となって実施。SNS、チラシ、HPを通じて多くの方の参加を得ました。「飯舘村に来るきっかけとなった」「面白いことが起きている村だと感じた」「久しぶりに村に来ることができて嬉しい」などの感想をいただきました。

村民からは次回の企画のアイデアや一緒にやりたいという声も上がりました。多くの村民が様々な手業を持っており、そしてそれを活かす場を探していることが分かります。来年度はさらに多くの村民や支援者と企画を拡大させていきたいと考えています。



プログラム

飯館の自然を芸術に

クリスマスとお正月のためのスワッグづくり

飯館村の花弁農家の小原健太さんと福島市のフラワー&レッスン野ばらの鈴木さちこさんを案内人に、ワークショップを開催しました。コロナ禍にもかかわらず村内外から参加者が集まった今回のワークショップは、飯館村内で集めた草花をメインに、オリジナルのスワッグ作りです。自分たちが住む地域の身近な植物を集めて自分で作ってみることで、故郷の自然の美しさを再発見できる内容となりました。



開催：2022年11月23日(水・祝)13:30-15:30



プログラム

飯館で海外気分 ラテアート教室

「誰かの生活を少しでも豊かにしたい」と活動する地域おこし協力隊の横山梨沙さんが講師。オーストラリアで身につけたバリスタ技術で村のPRを行っています。

今回は午前と午後の2回に分けて開催。合計5名の方がご参加いただきました。スライドによる分かりやすい説明と、水を用いてミルクの注ぎ方を丁寧に教えてくれます。練習用のコーヒーを無駄にしない、できるだけ使い捨てのカップを使わない、そんな環境にも配慮したラテアートの魅力を十分に味わえるワークショップとなりました。



開催：2022年11月27日(日)①11:30-12:30②13:00-14:00



プログラム

村のお母さんたちとまでいにちくちく 古い着物をリメイク、トートバッグづくり

「いたてつなげるキルトの会」のお母さんたちに教わる古着物の生地を使ったトートバッグづくりワークショップです。村外、村内から9名の方のご参加をいただきました。村のお母さんたちと楽しくわいわい交流しながらの作業。長時間のワークショップでしたがあっという間に時間は過ぎていきました。筆筒の中に眠っている古い着物を再利用して行ったこの企画。「これもSDGsよね」とお母さんたちは誇らしげです。寒い冬は家でちくちく家仕事。これからもつないでいきたい手仕事です。



開催：2022年11月28日(月)10:00-15:00





プログラム

飯舘村オリジナルの 荳胡麻ドレッシングをつくろう！

「いたて結い農園」の方々がまでいに育てている荳胡麻。荳胡麻を使った飯舘の新しいお土産を作ろう！と、この企画が始まりました。今回は福島大学食農学類の「いたね班」のみなさんにご協力いただき、ドレッシングを開発。さまざまな年齢層の方にご参加いただき、合計 8 名の参加となりました。3 班に分かれてそれぞれレシピを制作し、最後にみんなで味見。一番美味しかったドレッシングに投票します。

お昼ごはんには「いたて結い農園」の方が手打ちしてくれた荳胡麻うどんとみんなで作った荳胡麻ドレッシングサラダを堪能。投票で一番だったドレッシングのレシピです。ぜひお家で作ってみてください。



●ドレッシングレシピ

【ベース】

砂糖 小さじ1
醤油 小さじ2
酢 小さじ2
エゴマ油 小さじ2

【練り荳胡麻】

エゴマ 50g
エゴマ油 大さじ1

*優勝レシピ

【ベース】+
すり荳胡麻 小さじ1
練り荳胡麻 小さじ1
酒粕 小さじ1

*特別賞

【ベース】+
すり荳胡麻大さじ2
酒粕大さじ3
ニンニクチューブ2センチ
ショウガチューブ1センチ



開催：2022年12月4日(日)10:00-13:00



プログラム

SHIRUBE presents

蒸留体験&アロマワークショップ

耕作放棄地に価値を見出し、ハーブを栽培、商品化を行うブランド「SHIRUBE」が企画するアロマワークショップは、様々な植物を使ったフットバス体験から始まりました。岩塩、ホーリーバジルの精油、ラベンダー、マロウ、カモミール、そしてホーリーバジルが用意され、皆さん思い思いにお湯に浮かべていきます。ホーリーバジルティーを飲みながら、癒しの時間を体験しました。その後は飯館村の鍼灸師平野小みちさんによるミニつば講座。最後にホーリーバジルの香りがするクリームづくりを行って終了です。

8名の参加者の皆さん、ありがとうございました！



開催：2022年12月10日(土)11:00-12:00





プログラム

大学生と一緒に 飯館 de ダンス!!

飯館村の子どもたちを中心に 17 名の参加をいただいたダンスワークショップ。講師は、飯館村の復興支援活動を続ける福島大学大黒ゼミのダンサー2人、河野尚通さんと高野蓮さんです。「Lock」「Breakin」というジャンルのダンスに挑戦しました。

始まりは講師の2人のかっこいいダンスから始まります。間近で見るダンスに子どもたちも興味津々。その後は、振りを教えてもらいながら練習し、最後に発表会がありました。「一生やっていたい！」子どもたちに踊る楽しさを伝えられた、素晴らしいワークショップでした。



開催：2022年12月26日(月)10:00-12:00



プログラム

飯館の寒さを活かした伝統の保存食 凍み餅をつくろう

飯館村の寒さをいかした伝統の保存食「凍み餅」を作るワークショップです。定員を大きく越えた 18 名の参加者で行いました。講師は飯館村の漬物名人、高橋トク子さん。村の若い世代の参加も多く、また、東京から参加された方もいらっしゃるなど、大人気のワークショップでした。まずは炊いたもち米にごんぼっぱを混ぜ、餅つきを行い、出来立てを味わいます。その後は事前に用意していた餅を稲わらで編み込んでいき、ワークショップは終了。家で乾燥と冷凍を繰り返してやっと完成です。飯館の冬仕事を体感できるワークショップとなりました。



開催：2023年1月27日(金)12:00-14:00





プログラム

お花あふれる工房で ボタニカルキャンドルづくり

飯館村地域おこし協力隊であるキャンドル作家、工房マートル大槻美友さんが講師となって行いました。2日間、午前と午後の計4回に分けて行ったワークショップは、村の植物と大槻さんが集めたドライフラワーに囲まれる工房で実施。参加された皆さんは好きな植物を選んで思い思いにキャンドルを作ります。計11名の方に参加いただきました。

「また挑戦したい」「暖かくなった頃にまた来ます」と参加者からの言葉をたくさんいただきました。何度も訪れたいくなる、そんな場所が村の魅力を形作っていることを実感するばかりです。



開催：2023年2月18日(土)①10:30-12:30②13:30-15:30
2月19日(日)③10:30-12:30④13:30-15:30



プログラム

飯館村の新しいお土産づくり

台湾キッチンTAROTAROのパイナップルケーキ

飯館村で台湾定番のお土産、パイナップルケーキが作れてしまうというこの企画。5名の方に参加いただき開催しました。生地をこねて丸めて広げて、餡を包む。型に押し込む。焼く。簡単で、楽しい作業です。焼き上がったパイナップルケーキは持って帰って楽しんでいただきました。「台湾料理なんて、初めて食べるわ～」と村のお母さん。飯館村で台湾という異国の文化に触れる貴重な機会となりました。



開催：2023年3月4日(土)13:30-15:00





プログラム

移住希望者によるチャレンジ企画 アロママッサージ体験ワークショップ

飯舘村に移住を希望する佐野亜幹子さんによるアロママッサージ体験ワークショップ。旧臼石小学校の「はり・きゅうカセット」さんの部屋と備品をお借りして開催しました。「飯舘に行ける機会があって嬉しいです。村民の方ともお話できて良かった。」と話す佐野さん。何度か飯舘に来訪することで、移住の準備を整えたいと話します。今後も新しい復興の担い手を呼び込むチャンスとなる意義のある企画となりました。



開催：2023年2月26日(日)①10:00-11:00②12:00-13:00
③14:00-15:00④16:00-17:00

新型コロナウイルスの影響で開催中止となったワークショップ



プログラム

エネルギーって僕たちでもつくれるんだ
楽しくエネルギーを体感しよう！



プログラム

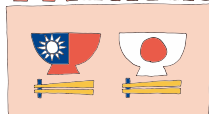
孫ちゃんに負けない
ゲームの腕を磨こう！

來來福島

わたしたちと旅をしよう。



TAIWAN



NIPPON

国境を超える研修旅行プロジェクト

「日台交流事業」

2019年からはまった福島と台湾の交流。文藻外語大学と国立台北大学という台湾2大学と福島大学の学生を中心に交流を行い、台湾が続けてきた福島県産品の輸入制限の撤廃を目指した活動を続けてきました。新型コロナウイルスの影響もあり、思うように直接交流ができずにもどかしい時期もありましたが、日台交流サークルの設立やWEBの活用など、継続的な交流の基盤を確立してきました。日台交流サークルの設立やWEBを駆使することで、継続的な交流の基盤を確立しています。

ついに2022年初めに実現した台湾による福島県産品の輸入制限措置の解除を受け、私たちの活動は大きな転換期を迎えました。そして私たちは、今年度の目標を『輸入制限措置の解除』から『福島の魅力発信』へと転換し、新たなチャレンジに踏み出しました。

新たなチャレンジの第1は、台湾学生を対象とした福島研修旅行の実施です。「冬」をテーマに、会津の雪と温泉などに加え、飯館村の冬の食文化を自ら体験するツアーを実施しました。残念ながら、コロナ禍による台湾からの留学生の福島来訪は実現できませんでしたが、県内外からの台湾留学生を迎えて、日台の学生が交流する3日間となりました。

もう一つのチャレンジは、福島大学生が台湾を訪れ、飯館村の現状ばかりでなく、福島の人や自然、伝統の技を伝え、多くの台湾学生を福島にご招待することを目的とした台湾研修旅行です。福島の魅力を伝えるため、自分たちの手で、福島の特産品である「あんば柿」を使ったチョコブラウニーや福島のリンゴをドライフルーツを制作するなど準備を重ね、満を持して3年ぶりの台湾訪問となりました。

この台湾旅行で私たちが伝えなかった事、それは、「ぜひ、福島に、そして飯館村に、私たちに会いに来てください!」ということだけ。

お互いを知ること、お互いを知ること、海の向こうの遠い地域にも心を開いてくださる方がたくさんいました。顔と顔を合わせる交流は地道かもしれませんが、確実に種はまかれています。研修旅行中たくさん耳にした「今度は福島で!」の約束を楽しみに、今後も顔の見える交流を続けていきます。

台湾留学生に 福島を体感してもらう旅

台湾による福島県産品の輸入制限措置解除を受けて、被災地が取り組む国際交流の目標は、「福島の魅力発信」へと新たなチャレンジする段階へと進みました。今年度も新型コロナウイルスの影響により台湾の学生を招致することはできませんでしたが、福島、そして東京に留学している台湾留学生を招き、福島研修旅行を実施しました。研修初日は飯舘村。当事業の取組みである「村民食堂」と「こちら5合目、応答せよ!」のワークショップを取り入れた研修を行いました。



* 飯舘村の伝統保存食をつくる 食を通じた交流



村民食堂では台湾留学生もスタッフとして参加。

村のおばあちゃんが作った漬物を楽しみながら村の方との交流も行いました。



* 観光資源の創造とまちづくりを知る



福島市「竹とうろうづくり」

福島市飯坂温泉にある医王寺で行った「竹とうろうの会」による竹とうろうづくりワークショップ。竹に好きな絵柄を針付け穴を開け、中に明かりを灯すと、幻想的な竹とうろうの完成です。一心不乱に作り、見ているとほっと温かくなるお土産ができました。

* 一面の雪景色 南会津町で自然環境の 素晴らしさを体感

福島の冬の素晴らしさを知ってもらいたい!と冬の南会津へご招待。雪の降ることのない台湾から来た留学生は一面の雪景色と伝統的な建物の並ぶ街並みに大喜びでした。



「こちら5合目、応答せよ!」の凍み餅づくりワークショップへ参加。縄を使った村伝統の保存食を作ることに挑戦しました。初めてとは思えないほどの出来栄です。暖かい台湾とは全く違った文化に触れ、先人たちの知恵に感嘆。



TAROTARO 便

—台湾研修事前準備—

福島の魅力がつまったお届けもの

冬福島の魅力伝えるべく準備した福島研修旅行でしたが、コロナウイルスの蔓延が収束せず、台湾からの学生を福島に直接お迎えすることはできませんでした。それでも、福島魅力を台湾の友人たちに存分に伝えたい！と福島の特産品を集めたBOX、「TAROTARO 便」を台湾にお届け。

お届けした内容は、学生たちが各地でワークショップを行いオリジナルで制作したものです。

福島の魅力と学生たちのアイデアがつまっています。





* 飯舘村産の草木が使われた ボタニカルキャンドル

台湾をイメージしたボタニカルキャンドルを制作。飯舘村地域おこし協力隊、工房マートル大槻美友さんが講師でワークショップを行いました。



* 飯舘村の伝統食 「凍み餅」

飯舘村の寒さを生かした保存食、凍み餅をお届け。台湾研修旅行の福島の魅力を紹介するワークショップにて、作り方、食べ方を紹介しました。



* 福島産の ドライフルーツ

福島市産のりんごをドライフルーツに。文藻外語大学でのお互いの地域の魅力を紹介するワークショップで使用しました。



* あんぽ柿を使った ブラウニー

福島の特産品であるあんぽ柿を使ったブラウニーを制作するワークショップを開催。アイデアを出し合い、実際に制作するところまで福島の学生が行っています。



「福島に来てください！」

—— 魅力発信の旅

実に3年ぶりの台湾研修。今回の旅は「福島へ来てほしい。そして私たちと一緒に活動してほしい」と伝える旅です。高雄の文藻外語大学と新北市の国立台北大学との交流、そして台北市内でのワークショップの3つをメインに組み立てました。

大学生同士の国際交流をきっかけに、福島への「共感」と「信頼」をもらい、そして復興を支える種がまかれた旅となりました。

台湾研修旅行 2023.3.15→19

* 福島から台湾へ移動の初日

初日は移動の1日です。福島から東京へ。そして、成田空港から台湾へ飛び立ちます。その後は新幹線で高雄へ移動しました。

FUKUSHIMA

TAIWAN



* 文藻外語大学との交流

文藻外語大学では、2つの日本語クラスの生徒と交流を行いました。まずは福島の学生によるプレゼンテーション「福島へようこそ」の発表。

その後は班を4つに分け、福島の学生と台湾の学生が一緒になって4つの企画を行いました。企画終了後、各班成果発表を行いました。



企画

- 1 ペアになって似顔絵を書こう
- 2 習字で日本語と台湾語を描き合おう
- 3 観光マップに載っていない学生ならではの台北の名所を教えてください
- 4 日本の昔遊びをやってみよう



—————> **次ページに続く**

文藻外語大学との交流 2

2つ目の日本語クラスとの交流では、ペアになり、お互いの地域の好きな場所を紹介し合います。学生たちはすぐに打ち解け、写真や実物を見せながら交流しました。午後は、文藻外語大学の学生さんたちが高雄市内を案内。綺麗な景色とたくさんの美味しい食べ物を食べて、福島と高雄、深い交流となりました



再生可能エネルギーが学べる運動ジム！

TAIPOWER D/S ONE 電幻1号所の見学

電幻1号所は音楽監督やアーティストなど様々な専門分野のスペシャリストが集まってつくり上げた再生可能エネルギーを学べる施設。走る、漕ぐ、投げるなどの体験プログラムを行うことで、再生可能エネルギーに変換され、視覚となって現れます。ただ学ぶだけではなく、動いて学ぶ、映えて学ぶ、最先端の施設を見学しました。VR体験をした学生さんも。



国立台北大学との交流

高雄から台北に移動し、国立台北大学の学生と交流。福島の魅力を伝えるプレゼンテーション、そして各4つのワークショップを行います。福島と台北の魅力を伝えあい、充実した交流となりました。



台北市内でのフィールドワーク(FW)

福島の学生が3つの班に分かれ、台北市内でフィールドワークも行いました。イメージアンケート調査では、福島県産品の輸入制限解除が撤廃されていることは知らない人が多く、しかし、福島県産の食べ物は食べたい、福島に行きたいという人が多いという結果でした。魅力発信を行っていくことが重要だと再認識する結果です。

* FW1. 太極拳体験

台湾ではお馴染みの光景、朝の公園に行くとおじいちゃんおばあちゃんが太極拳をしています。それに混じって一緒に太極拳をしてみました！中にはちょっと日本語を話せるおじいちゃんもいて楽しい交流に。



* FW2. 日本のこれ何？使い方知っていますか？

台湾の道ゆく人々に日本の昔遊びであるけん玉やあやとりの遊び方を聞き取り調査。知らない人がほとんどでしたが、日本のアニメーションの影響であやとりを知っている方もいたり…。日本のアニメ文化の影響を感じました。



* FW3. 福島って知ってる？台湾でのイメージ調査

台湾の方々に福島についてのお題を設け、シールアンケートを行いました。

Q1. 福島のことを知っていますか？

知ってる…32 知らない…1

Q2. 福島の野菜や果物、魚などを食べたいと思いますか？

食べたいと思う…27 食べないと思う…5

Q3. 福島県産品の輸入制限が撤廃されていることを知っていますか？

知っている…9 知らない…16

Q4. 福島に行ってみたいですか？

はい…29 いいえ…2



おいでよ、ふくしま

つなげる

→ 來來福島

本年度事業総括

山頂に向かってさらに一步、進む

本プロジェクトの第2企画「こちら5合目、応答せよ！」は、震災以前から飯舘村の「までいな村づくり」を実践してきた村民、故佐野ハツノさんの言葉をお借りして命名したものです。「震災によって村づくりがゼロになったわけではない、5合目からの再出発だ！」という言葉、震災からひと月という絶望的な時期にお話しになった佐野さんには、村づくりを支えた理念や人、村の伝統や村民の手に残る技に対する絶対的な自信があったのだと思います。

プロジェクト実施の半年を通じて、私たちにも、それがよくわかるようになりました。

毎回少しずつ変えた6回の村民食堂のメニューは難なく決まり、どれも訪れた皆さんには大好評でしたし、10を超える村の手わざを基にしたワークショップの企画も、短い準備期間で集めることができました。

しかし、私たちが佐野さんの言葉を本当の意味で実感することになったのは、この半年の間、村民食堂やワークショップの現場で数多く寄せられた声を通してでした。

- 「村民食堂の枠内で、自分もずっとやってみたかった『蕎麦屋』を出してみたい」
- 「これまで細々と家族や友人にふるまっていただけの『紫蘇ジュース』を商品化してみようと思っている」
- 「学生さんに手伝ってもらって、うちに作ったピザ釜を使って何かワークショップができないか」

村民の方から、次つぎと新たな提案が寄せられたのです。



「いいたて村の村民食堂」プロジェクト 「までいな」ワークショッププロジェクト 国境を超える研修旅行プロジェクト
「までいな家」をみんなの家に 飯舘村民と大学生が協働する 飯舘村復興を目指す3つのプロジェクト

村民ばかりではありません。飯舘村へ移住してきた方や、移住を考えている方からも、

- 「村内でのワークショップを重ねて、自分の村での仕事を定着させたい」
- 「食堂経営にずっと関心があったので、村民食堂でチャレンジさせてほしい」といった声が寄せられました。実際に、年度内に実現した企画もあります。さらには海外からも。

福島大学生たちがコロナ禍のなか出向いた台湾で実施した路上アンケートでは、「福島に行ってみよう」という多数の声が寄せられましたし、飯舘村での復興支援活動を組み込んだ学生企画の「福島研修旅行」への招待には、台湾の2大学（文藻外語大学と国立台北大学）の多くの学生から、「ぜひ行きたい！！」との声が上がりました。

佐野さんが確信していたように、村の復興を支える理念、人、伝統や手わざは、今でも生き活きと村づくりを支えています。そして村外からも、さらには海外からも、困難な5合目からの山登りをぜひ一緒に！という人たちが村へと向かっているのです。

寄せられた多くの声に、私たちも勇気づけられてきました。私たちも歩みを止めず、これからもみなさんとともに、一步一步、山頂を目指していきたいと思います。

一般財団法人 飯舘までい文化事業団



飯舘までい文化事業団



主催 一般財団法人飯舘までい文化事業団 協力 福島大学行政政策学類大黒ゼミ

お問い合わせ 一般財団法人 飯舘までい文化事業団 事務局 tarotaro@furusato-bunka.jp

このチラシは福島県「令和4年度ふるさと・きずな維持・再生支援事業」の補助金の交付を受けて作成しています